

第35回 日本解放社会学会大会 プログラム

2019年9月2日(月)～9月3日(火)

於：早稲田大学

戸山キャンパス

アクセス

<https://www.waseda.jp/top/access/toyama-campus>

2019年9月2日

場所：早稲田大学

9:45～ 受付(戸山キャンパス 33 号館 332)

10:15～12:15 自由報告部会 I (33 号館 332)

司会：田中慶子 (広島修道大学)

報告：

1. 岡本昌人 (所属：大阪市立大学大学院創造都市研究科)
部落出身青年の現在の生活における同和教育の影響についての一考察
—30 代の非大卒の部落出身者の語りを通して—
2. 阿久澤麻理子 (大阪市立大学人権問題研究センター／大学院都市経営研究科)
部落出身教師の語りにみる同和・人権教育の課題
3. 中川理季 (関西学院大学大学院社会学研究科大学院研究員)
特別法失効後の自治体による同和地区への取組みと部落問題の解決
——京都市の隣保事業廃止とその後に着目して

14:00～16:45 テーマ部会 (33 号館 332)

テーマ：ポスト社会モデルの社会学——『障害社会学という視座』が拓く可能性

司会：森山至貴 (早稲田大学)

報告：

1. 榊原賢二郎 (東京大学)
2. 石島健太郎 (帝京大学)
3. 吉村さやか (日本大学)

コメンテーター：大坪真利子 (早稲田大学) 森山至貴 (早稲田大学)

17:00～17:45 理事会・総会 (33号館 332)

18:00～20:00 懇親会

会場：森の風 <http://www.cafecompany.co.jp/brands/morinokaze/waseda/>

2018 年 9 月 3 日

場所:早稲田大学

10:30～12:30 自由報告部会Ⅱ (33号館332)

司会:佐藤裕(富山大学)

報告:

1.高森明(立命館大学客員研究員)

「就学可能」、「雇用可能」な障害者カテゴリーの生成をめぐって
—19世紀末イギリスにおける「正気のでんかん」を例にして—

2.辻康夫(北海道大学)

本質主義批判をふまえた多文化主義政策の可能性

3.福岡安則(埼玉大学名誉教授)

ハンセン病家族訴訟「判決」を評す

12:40～14:00 拡大役員会 (33号館332)

大会参加費

会員 常勤職 ¥2,000 常勤職以外 ¥1,000 非会員 ¥2,000

懇親会

2019年9月2日18時30分より

懇親会費

会員 常勤職 ¥5,000 常勤職以外 ¥3,000 非会員 ¥5,000

懇親会場

森の風 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻516

早稲田大学 早稲田キャンパス 26号館15F

03-5291-5620

場所:早稲田大学戸山キャンパス

